夕刊
磐城新聞
十月十二日發行
發行所　磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇六・五五八番

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩も明日も北東の風曇時々小雨

秋草の花（二）

國玉喜輝

早くあんな綺麗なオヨメサンになりたい。女の兒の無い瞳は、夢の樣に美しく燃えて、陶醉と憧憬に輝く夢なら覺める時があらう。あゝ！われも夢だつたとなげく愚かしさを嗤つてはならない。

だが、オヨメサン、オカアサンへの夢は、夢としての絢爛さではなく、むしろ苦惱や憂愁や悲痛なものを含んだ生活を伴奏としてではあるけれども實現する筈である。そして、それらの夢は、希望とか計畫とかと云ふ名にかへられて、人妻とか、母とか云ふ生活の中に、縮縮されて行く。悲哀、苦患、幻滅、憂悶をよみこねつつ、つつましやかに、有意義にそれらの夢の世界は現實の中に現はれてくる。勿論、夢のまゝに終ることもあるであらうが……

あかのまんまの御飯を食べた莚の上の子供の生活とおんなじ、まゝごとみたいな人間のおとなの生活が、ふとさびしいものにも思はれてくる時がある。だが矢張、それだからこそかも知れないが、心の隅に、夢を否定しきれない、或ひは夢としてもつて行きたい、何かがある樣な氣がするのである。

三、つゆくさ

澄んだコバルト、明色の感傷、――このつゆくさは朝の花だ。露のほとりのどこにも見られるし、何だか明るい感じをもつた愛すべき花の一つだ。はたあ草と云ふ名も親しみ深い。朝々の露を浴びて、咲き出して、もう晝すぎには、その花びらを小さく縮めてしまふ。曇り日や、雨の日は、夕方までそのまゝで居るのを見る事があるが、た天氣のいい日に夕方まで咲いたまゝで居る事は絶對にない。

何でもない、ごくありふれた花だが、また此の平凡さの中に、謙虚な、つつましやかな美しさがあつて心惹かれるのである。一体、こんなことを考へること、それ自体保守的だとか、封建的だとか云はれるかも知れないが、女性の生き方など此の花の樣な美しさであつてほしいと思ふ。別段に眼立つた活動をしてもらはなくてもいいから、おのおのの生活、家庭などを、その平凡なつつましい美でかざつてほしいものである。自分を中心とした小さい社會生活をさへ十分に滿足させることの出來ない女性が案外外へ出て、大きな風を利かして居たりするやうの人のする事ほどに角ともて、馬鹿馬鹿しいと云ふ感へが先、立つてしまふ。

家庭を、いつもコバルトの明色に澄まして夫と子供をよろこばせ乍ら、ほんとに何でもない、妻と母の生活にいそがしい人たちは、或意味で幸福だとも云へるし、また、間接ではあるけれど、女性としての義務、使命といふものを、國家に對して果して居るとも思はれるのである。

女性は聰明であれ、これはまことにいゝ。殊に母はさうあつてほしい。たが、それも鼻の先に提灯をぶらさげた樣なのは、どきつい直接光の強さで、あぶなつかしくて仕方がない。

ほんのりと柔らかな間接照明の樣な聰明さ、これは少し理想論すぎたかもしれないが、つゆくさの色や美しさからの聯想である

九、二八

寄贈書目

△ローマ字十一號（一部金二十錢東京市京橋新川二丁目二、ローマ字ひろめ會）

10月13日

△日蓮上人寂（弘安五）△東京遷都（明治五）△昭和十二年勅題「田家雪」を仰せ出さる（昭和一〇）

ランプ屋讃

島田忠夫

◇久しくして歸平し見るに、ランプ屋乞食、老いたりと言へども、至極健在なり。顏容なごやかに、あたかも聖のごとし

○大いなる聖にもあるか白き毛のまじふ口ひげ己れ撫でつゝ

○腐れた瓜をいただき笑める顏さかしら人と比ぶべくもなし

○ほほと笑み瓜を喰ひぬ今の世の穢ひをすら知らざるらしも

○この町に住むひさしくて老いづけり聖かと思ふランプ屋きみを

[illegible]

○

夕やけをすうてゐるなり秋の川　原子

賀田中平土木監督所長榮進技師

珠雲　小野務平

營々匪躬茲有年
人皆讃仰事功全
才名德望誰相比
九錫殊榮豈偶然

豫言（5）

哲名山人

わけても正嘉元年四月十六日の月蝕、八月一日の大暴風、八月二十三日の大地震、十月八日の再度の大地震、正嘉二年の大旱魃、正元元年の大疫病など、ひつきりなしに重大な事件が起つて、人心はいやが上にも不安の度を增してゐたのである。

下つては大正十二年の東京地方の大震災ならびに火災に引續いての諸震災、函館の大火災、昭和八年の東北地方大凶作、同九年の全國的凶作、昭和九年九月に起つた關西一帶の風水害及び本年の地震、風水害、又邪教事件、赤化事件、これと方向を逆にしてゐる[illegible]一五事件、それから此度の日支事件等著しきものである。

然しチェコ問題は一段落はついたとは云へ今の世界の狀勢を考へて見るといつかなる突發事件を生ずるかもわからない、そしてこの事件がいつ如何に我國をまきこむかもはかられはしない、それをみ、これをみ、しかして其の後に來るものを豫言し（來年は從來大動亂の兆あり）非常時局に對し國民は一大決心をなさねばならぬ。

講談　隱密小天狗（148）

中川雨之氏作　近藤鐵氏畫

狂へる男

此方からは、小夜美と嘉助である。

土手から斜に、小道を下りた河岸で、渡し船を待つて居た二人は大川を對岸へ渡るつもりである。

川向うは橋場である。

その橋場の小祠にこそ、尋ねる俊作はゐたのであるが、神ならぬ身の、もとより二人は知る筈はない。

しかし、それはもう四五日前のことで、いまでは秋の祭である、

間もなく橋場の眞先稻荷の下に着いた渡し船から、ぞろ〳〵上つて來る乘合の中に、小夜美等も交つて居た。

其處から、もの丶小半町も南へ行つた處に、皮肉にも正雪の謎の寮があるのだ。

しかし二人は、何の氣も付かずに、いましも、その寮の前に差しかかつた。

と、此邊の里方らしい七八人の男女が、一とかたまりになつて、路ばたで、何かごそつき合つて居て、寮の中から、大聲で、なにか喚いてゐるのが聞えて來る

渡し船を上つて、同じ方向へ歩いて來た者は、其處まで來ると、言合したやうに足を留めた。

『何かあつたんですか』

と、一人の男が中を覗き込みながら尋ねると。

『狂人でさあ』

と、里人の一人は答へた

意味の判らぬ狂的な叫びが、またれうの奥からげら〳〵と聞えて來た。

小夜美も、嘉助も、その人群れの中に混つて聽いて居ると、彼方此方でいろ〳〵の噂が話し交された。

『寮のれうの息子さん、氣狂になつたんですがね。まつたく無理は有りませんよ……』

妹は殺される、親爺さんは自殺をする』

『そんな事になるてゐなあ一體どういふ譯で』

『さあ、それがね、町方から、近頃引移つて來たばかりの親子で、村交際をして居ねたものだから、さつばり判りませんかね』

『隨分、立派なれうぢやありませんか。お大名か、お旗本か、それとも町人の金持か、持主は、一體何處の誰でせう』

『牛込の由比正雪先生ですよ』

『あ、さうですか。あの叛町に道場を構へて、市中で評判の、軍學の先生ですね』

『さうです』

この話を聞いた小夜美と嘉助は思はず眼を視合した。

正雪が橋場にれうを持つてゐるといふ話は、豫てから聞いて居る。そして俊作が、忠彌、牛兵衛等に連れられて、二三度、其處へ遊びに行つたといふことも聞いて居た。

『俊作の行方に就て、何か手懸りでも』

と思ふと、二人は、そのまゝ行き過ぎてしまふ事は出來なかつた。

その中に人群が崩れてしまつたので、その隙に、門を潜つて、二人は靜かにれうの中へ這つて行つた。

すると、突然グラ〳〵といふ笑聲が、一種の凄味を帶びて、響いて來た。

小夜美は、思はずゾッとした。その笑聲をしるべに垣越にソッと覗いてみると庭石に腰をかけて居る男がある。彼方向いて居るので顏は判らぬが、兩足をウンと前に踏み伸ばして、右手に握つた生樹の枝でバタ〳〵と大地を叩いてゐる。

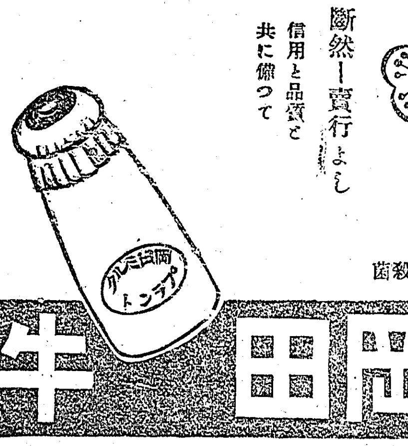
と、足音が耳に入つたかクルりと此方を向いたが。いやはや、その眼の凄いこと。

旅館　大幸館
東京上野驛前　下谷郵便局横通角
電話下谷（83）六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄

お醬油は……ヤマフル
醬油醸造　山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番）（本店二七番）
味噌　醬油　たひら正宗　鰹節　食料品
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵機械　KS　井尻七三郎商店
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場　平市鍛冶町廿三番地
倉庫　平市鍛冶町九番地
御買上品精々御安く納品至ます
御拂下品は精々御高値に買受ます
十二封度レール、トロ車輪付屬附鐵工工具品、新品着荷致しました

低温殺菌
岡田牛乳
平市鎌田町
電話五一
断然一賣行よし
信用と品質と共に優つて



看護婦
見習看護婦
數名募集
（希望者御來談下さい）
新川町
婦人科　五十嵐醫院

ダイナモ
バッテリー
四氣筒六氣筒
マグネット
礦山用エンヂン
久野電機
平市紺屋町五三
電話七二一番
振替東京一五、一〇四番

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館
須藤なつの

外科、内臟外科
エッキス光線科
一新設一　産婦人科　醫學士　黑澤
院長　安齋徹
入院設備
安齋醫院
平市田町
電話四七五番

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します、
福好工業合資會社
代表者　強口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します、

新車のお知らせ
断然!!!　乘心地良い!!!
三七年型フォード
入庫いたしました。
是非！御試乘の程を！
市内四丁目
スギタタクシー
電話二一七番

一、公債、株式、債券
現物賣買
株式は一株より
債券は一枚より
弊店儀開店未だ日淺きにも不拘、業務日に順調に運ばれ候事は是れ皆樣方の御後援の賜と感謝仕り候、尚此後とも一層御引立被下度御願申上候。
敬白
和　株式店
福島縣平市田町二十五番地
電話三六五番

運轉助手見習募集
年齡十六、七才より二十才迄通勤も可
手當其他委細面談
平市白銀町
不二タクシー
電話三二番

職工及見習工募集
一、指物工二名（給面談）
見習工
一、旋盤部、仕上部、鑄物部、木型部、製罐部、電氣部各五名
通勤、住込隨意、委細來所サレタシ
平月見所
佐藤鐵工場
電話三六二番

無競爭で筋書通り
所得調査委員決定
けふ選擧會無事終了

市、郡下に於ける所得調査委員選擧の結果は、全村五名の投票終了を待ち、一昨十日午後三時逸早く報告書を平税務署に持ち込んだ永戸鹿島組合村を筆頭として郡役に態夫に續々と到着、昨十一日午後五時到着の豐間村を最後に全部が完全に取揃つたので今十二日郡來書類を整理の上選擧會は愈よ午後一時から

選擧長平税務署長司税官　川鍋孝藏
立會人　猪狩庄平　酒井寅之輔

諸氏により開會左記當選者を定め一時半終了、直に公示の上夫々當選通知書を發した

平税務署所轄內所得調査委員

二〇〇票　小野晋平
一九八　結城幸次郎
一九〇　渡邊貴一
一六三　野崎滿藏
一六二　阿部政右衛門
一三六　青天目信治郎
五七　近藤吉松

同上補闕員

二一三　猪狩庄平
一八四　大嶺庫
一五八　岡田千藏
一五五　古川慶福
一五一　吉田恭平
一〇三　吉田善三郎
五八　樫村富保

意外に多い棄權
時局下の無競爭と一般の關心薄が因

山村荷路夫に一名の該當者は女性有權者が交つたなどが無い丈けで市、郡部のも之の傾向に拍車したもの有權者男女千四百七十九名の如くである中調査員の投票數合計千百廿二票、補闕員千百十八票で棄權は前者三百五十七票二割四分一厘後者三百六十一票二割四分四厘の多數に上つてゐるが、右は選擧運動に就て多くの拘束無いに拘らず時局を考慮した無競爭選擧から山間僻遠の方面迄敢て手を及ばさなかつた候補者が多く且つ有權者側の關心も比較的深くなかつたに因るものと觀られ、尙

平署管內棄權者數　二割三分四厘

有權者千百四十二名の平署管內は
棄權二六八―投票總數八七四（正員）無效五有效八六九（補充）無效四〇　有效八三四
棄權率は二割三分四厘弱に當り補充無效の大部分は婦人の白票である

今月から四年間
任期は直に起算

所得調査員及補闕員の選擧が終了したので川鍋署長から法に基き別項の如く當選人の氏名を公示し且つ之を當選人及び市町村長に通知し之の通知を受けた市町村長は更に當選人の氏名を公示する。而して調査委員又は補闕員に當選したるものは正當の事故なくして之を辭する事か出來なくなつてゐるので右の通知に接した人達は今月から四年間調査委員として法の定むる所により夫々職務を行ふのである

尙ほ委員會は毎年開會の始に於て委員中から會長を選擧する、委員會は定員の過半數が當ゝ委員出席するに非れば決議する事が出來ぬ、議事は出席員の多數を以て之を決し可否同數なるときは會長が決する、委員は自己と同一戸籍內に在る者の所得に關する議事に與る事が出來ぬ等種々なる規定が設けられてある

別項「意外に多い棄權」記事中棄權者數には調査員七名、補闕員四十五名の無效投票を包含するに付補正す

鍛練馬術生施設日割

既報、郡下の徵兵適齡者に對する軍用候補鍛練馬術生並に諸施設は左記日割で行ふことに決定した（カッコ內集合場所）△十月廿八日　平（平、好間草野）△二十九日川前△三十日永戸（赤井、永戸澤渡）△三十一日鹿島（高久、鹿島、磐崎）△十一月一日渡邊（泉、渡邊、植田）△二日上遠野（上遠野、入遠野）△三日勿來（山田、田人、勿來、川部）

上下小川組合村葬

去る七月十二日安徽省安慶沖合の戰鬪で壯烈の戰死を遂げた上下小川組合村出身陸軍輜重兵上等兵小松吉春君の村葬は來る十六日午後一時から同村小學校で執行する

美術の秋に輝く榮冠
文展に平市から二人
地方畫壇に凱歌あがる

昨十一日發表された第二回文展二部（西洋畫）の入選者に地方から齊藤利彦・眞木雄二の兩氏が見ん事初入選の榮冠をかち得て美術の秋を飾つた

苦節十年の結實
元第一校の圖畫の先生　齊藤氏の歡び

水彩畫『百日草』の入選者―市內イワキサロン森川泰一郎氏方齊藤利彦氏（三六）＝福島市若松町出身＝は福島中學から東京美術學校卒業後石川縣立工業學校で三年半に亘つて教鞭をとり昭和八年一月平市に轉任後第一校にあつて約半歲圖畫手工專科教師をつとめた、同校を去つてからは常磐海岸風景觀賞會を主宰し傍ら磐城訓盲院內に『齊藤畫塾』を開いて地方愛好者のため熱心指導研究に精神してゐた熱と力の獨身畫家――學校を出てから苦節十年やうやく酬いられて。

嬉しい、百日草は一見かたい感觸を見せてゐるがその實多分にやはらか味を包んでゐるので僕はすきです、昨年試作したが思ふやうに描けず今年新を窓たにして描いたものです

と入選の歡びを語つた、父は既に亡く母親マサさん（六〇）は福島にあつて『觀玉』と號し花道の教授をしてゐ

今度が二度目の出品
伜の入賞を喜ぶ　市內六間門　眞木鏘吉翁

洋畫『斷崖』の入選者眞木雄二氏（三四）は市內六間門に三千代夫人（六三）とたゞ二人悠々老後を樂しんでゐる鏘吉翁（七三）の二男で東京市牛込小學校の『圖畫の先生』だ　東京市日本中學から關西甲陽中學を卒業後今から十四年前本郡草野小學校にあつて一年間代用教員をつとめ、其後獨學によつて中等學校圖畫專科の免許をとつた努力家で前記牛込小學校には十年間教鞭をとる傍ら洋畫研究に專念してゐる獨身先生である

父の鏘吉翁は元大藏省の印刷局技師をつとめた人、雄石吾子の入選に喜びの顏を輝かせながら

雄二は飾り氣のない素直な男です、小學校（東京四谷第一）時代からとても作文や圖畫が得意で在學中『僕は世界の文豪になるんだ』と頑張つてゐたが卒業後は急に希望を變へして開畫がすきめる日本畫を外に洋畫一つでんばりで進んで來た、一昨年は最後に行つて惜しくもふるはれなんだからやつも喜んでゐるだらう、昨夏休暇中房總海岸で描いたものでせう。

この少壯畫家を生んだ地方には德川時代から明治初年に名をはせた菊地容齋畫伯をはじめ我邦美術鑑賞家としてフランスにも渡つたことのある河原德立氏等がある　尙雄二氏作の圖案は文部省指定の中等學校教科書に登載されてゐる

金風に長嘯して
銃後の健康を暢叙
二日續きの休みを生かせ

毅切の旗日には降られたが二日目の日曜には晴天。去月下旬に於て伸々した二日連續の休み氣分を滿喫した許りなのに今度は十六日の日曜に十七日の神嘗祭を、今年の暦の何と勤め人に恩惠の厚い事よ。軍國の秋漸く深んで一入の緊張を覺ゆる今日、時局を辨へぬ遊樂の遠出はお互戒め一番と要する譯ではあるが、日の丸辨當携帶で郊外へ、野に岳に颯爽たる金風に長嘯して非常時下の健康を暢叙するも良からう。あと尙ほ中三日、けふの辯空も其れ迄には何とかならう、ルックの綻びを繕つて其日の豫定を樂しむ家庭の嘸や多い事であらう

長男一郎氏（三八）は現在大阪鹽水港製糖會社の工場長をつとめてゐる東北帝大出の少壯技術者である

三勇士聲なき凱旋

在滿中討匪行で樂土建設の礎石となつた地方出身左記勇士の遺骨は十五日大連港を後に懷しの原隊へ聲なき凱旋。小名濱町、中町上等兵山本榮、草野村泉崎同猪狩正雄、田村小山渡邊榮

昌慶丸船中から

今朝八時下の關着。同驛ホーム迄芦川坑長（大炭礦）御夫妻が迎へ下され、乘船その他御世話樣に相成り、午十時半出帆仕り候

九日　遠沼生

十三日奉天へ出發

十一日京城にて　遠沼

陣中を聽く
……（261）……

死線突破既に幾度
お蔭で今尙ほ息災
市內田町出身　伊藤正吉君（通信）

秋冷の候と相成りました其後皆々樣には暫く御無音に打ち過ぎ誠に御申し譯御座いません。扱て先般は御丁寧なる御慰問下され且又懷かしき異國の時局時報がお送り下されまして小生陣地の曠野より厚く御禮申上げます。御通信に承れば郷里方面には何ら異狀無く尙は皆々樣には目下非常時の折柄至極元氣にお暮らしのる事は小生として誠に喜びに堪へません。次に小生も昨冬（略）皆々樣にお別れの際勝つて歸ると大元氣に出た私です。茲に暴支膺懲の聖戰に身命を抛て或は炎天續く高温百餘度の暑さを凌ぎ、又風叉强まる冬の日も頑敵と戰ひ、此間幾度か戰鬪に臨んで死線を越ゆること數回に亘り幸にして本日に至り微傷だも負はず自己の職責を全うし得ましたことは此れ全く銃後に於ける皆々樣の熱誠溢るる御祈願と御厚情の賜と深く感謝致して居ります。今や前線部隊は武漢三鎭を目指して猛攻に亘る追擊、敵將介石は目下奥へ奥へと逃げて行くのではないか、我々は徐州會戰後各地の討伐を致し其後當地に重大なる任務を以て警備の任務に服し、當地は徐州戰の敗殘と津浦鐵道沿線の敗殘兵の集結地故なか〳〵殘兵も優秀なる兵員を使用致し奮鬪致し來間の如き我が警備線に入り來り或は夜襲を致し來り我が將兵も至極元氣に破竹の勢を以て敵に應戰致し居ります、又當地の殘兵掃蕩に出て活躍致して居る有樣です色々陣地の狀況をお知らせ致し度けれど（略）何卒惡しからず。

時局は重大であります。小生もこの長期戰と共に大に奮鬪致します。尙は銃後の皆々樣に御期待に副はん樣努める覺悟にございます

九月二十二日

けふ縣下方面委員大會

縣下方面委員大會は今十二日午前九時から市公會堂に知事代理知田學務部長臨席の下に開催、出席七百五十餘名　知事訓示、宣言、講演（厚生省保護課事務官）午後から銃後々援の徹底（指示）方面委員觀察外數件の協議事項を附議、閉會した、明十三日から二日間は出席委員のため縣社會事業協會主催による社會事業講習會がある

遲くも十二月頃迄
二階建の新廳舍完成
平紹介所近く着工

平職業紹介所の新築は其の前提たる市營職業事務所移轉（市役所構內東方へ）工事がはや大修完了したので愈よ近く着手する　工費は約五千圓で二階建である

遲くも十二月頃に完成の見込み

一方紹介所の移轉によつて將來單獨となる社會課へ新に其關係部門が含まれる

。。。。。。藥袋特高課長來平　藥袋縣特高課長は植田に一泊、昨十一日來平、午後一時から平署會議室で全署員に訓示、一層の奮起を望んだ

。。。。。。夏秋繭減少　蠶業取締平支所調査の管內夏秋蠶豫想收繭高は（石城）七八、四一八貫（平）二、三九〇貫で天候不順による掃立減のため郡部は一割一分三厘、市部も六分三厘の何れも減

。。。。。。清潔法また變更　平市の清潔法は二十日が商店公休のためまた左の如く變更、十八日、二十一日、二十二日

。。。。銀紙獻金　市內才槌小路菅野清吉さんは銀紙九十四匁を國防費として市役所寄託

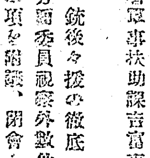
擴聲機

◇平市景氣に踊る會社、工場の求人難を反映して職業紹介所の窓口は昨今迄らも忙しい◇『働く氣ならいくらでもありますよ』と云ふ所員の話によると最近求職者は略ね失業者ではなく、一定の職についてゐながら現在以上の良い處をねらふものが多いとのこと◇恐らく地方には失業者らしい失業者はゐないだらうとの事である

。。。。。。平商業學校講堂建築協議　市では平商業學校講堂建築に關し十三日午後四時から建築委員、商議商友會長を招いて協議

。。。。水神祭　市では十五日午前十時から八幡小路配水池構內で水神社祭典を執行

十三日（小名濱潮汐）
滿潮　午前七、一五　午後六、五〇
干潮　午前〇、三五　午後一二、一〇



舊八月廿日　木曜　十月十三日　戊寅　先負　角宿

諸判定所　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　和親を保ち營業專念に努むべし他諸事は凶▲二黑　從るともつまづかざるやうに靜々と進むが勝ち▲三碧　辛抱甲ひの現はれ來る日名弘開店縁組皆吉▲四綠　有利の日なれども過ぐれば抑てしつ敗す▲五黃　手順を誤らず進むにあせらざるやうにすべし▲六白　必堅實なれば目上の引立ありて出世すべし▲七赤　盛運の日なれども病には弱し飲食物に注意▲八白　變化激しき日なる故心を散らさぬ樣すべし▲九紫　思ひを安靜にしよのてう流に迷はぬ樣すべし

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2）　西村藥局　（電3）

內科　外科　皮膚科　泌尿科　花柳病　一般（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話　三〇九

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
萬織田材木商店へ
福島縣平市　電話平四六〇番
一變せる勉強振りをぜひ一度お試を乞ふ
營業細目　建築木材一式　銘木・ベニヤ板　秋田杉・杉西分板　建具材・便利瓦
◎小店員募集　年齡十五歲ヨリ廿歲迄

重田眼科
眼科一般　眼鏡檢定
平驛前通り　元貯蓄銀行跡
醫師　重田景治
平市田町一番地

空冷式　健康陶枕
笑はれる程よく眠れる、疲勞倦怠を快復し精力記憶力を增進する實用新案の健康陶枕
腦を酷使する人、腦神經衰弱の人又は藥よりも……この空冷式健康陶枕を……
效能　高血壓症　腦溢血症　不眠症　のぼせ症　耳鳴、頭痛症の方に特に卓效あり
特約店　平市五丁目　入江陶器店　電話五八二番

看護婦至急募集（委細面談）
高柳醫院